

京都大学教育研究振興財団助成事業  
成果報告書

2023年 12月 28日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会長 藤 洋 作 様

所属部局・研究科 アジア・アフリカ地域研究研究科

職名・学年 5年一貫博士課程 4年

氏 名 畔柳 理

助成の種類	令和4年度 ・ 在外研究助成			
研究課題名	モザンビーク都市零細製造業の存続と発展のメカニズム： 消費者との関係に着目して			
受入機関	モザンビーク共和国 エドアルド・モンドラーネ大学			
渡航期間	2023年 9月 7日 ～ 2023年 12月 4日			
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有( )			
会計報告	交付を受けた助成金額	714,000 円		
	使用した助成金額	534,000 円		
	返納すべき助成金額	180,000 円		
	助成金の使途内訳	費 目	金 額 (円)	
		渡航費	270,000	
		滞在費	264,000	
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 貴財団のご支援により、モザンビークでの現地調査を実施することができました。また、大学院生であっても申請が可能な現地調査研究への助成事業は極めて希少であり、世界的に航空運賃や物価が高騰する中、経済的な心配をせずに研究に取り組むことができました。厚く御礼を申し上げます。			

## 成果の概要 / 畔柳 理

### 研究の背景と目的

都市部を中心に人口が増加するモザンビークでは、国内の消費者向けに製品の生産・販売活動を行う地場の製造業が増加している。地場の製造業は雇用や付加価値の創出などの点から産業開発に寄与することが注目されており、その生産・雇用規模の拡大がモザンビークにおける産業開発の課題となっている。

上記の背景から、地場の製造業の成長に影響を与えうる要因の究明が進められており、定量的なデータに基づくこれまでの研究から、金融アクセスへの制約が地場の製造業の投資の障壁となっており、労働生産性の向上を妨げている点や、政府の規制・支援が企業全体の成長に一定の影響を及ぼしうる点が明らかにされている。

地場の製造業に関する上記の定量的な先行研究は示唆に富むものの、特定の時点の定量データを利用したが故の静的かつ集計的な分析にとどまるものが多い。企業間の競争や存続・発展に向けた具体的な実践は捨象されており、実際に企業がどのような経緯を辿って規模の拡大を果たしたかという点に関しては、記述・分析が不足している。また、先行研究は企業の生産能力など供給側の要因に焦点を当てたものが多く、今日のアフリカにおいて、人口増加が消費市場の拡大を通じて事業者の規模に影響を与えていることは容易に推測されるにもかかわらず、需要の拡大が企業の活動に及ぼす影響に関する視点が希薄であり、企業と拡大する国内市場との関係が必ずしも議論されていない状況がある。

報告者は2018年及び2019年に、製造業の発展において基盤となると考えられる金属加工業を対象に聞き取り調査を実施し、その結果、金属加工製造業の中でも、特に「鉄工所」と呼ばれる金属製建具製造企業の数が増加していること、鉄工所は近年の住宅需要の拡大に応じて、鉄製の門扉や窓枠等を主に製造していることなどが明らかになった。更に、鉄工所各社の間で、消費者の嗜好を意識し、雇用規模及び生産規模を拡大させている企業とそうではない企業があること確認された。

本研究では、これらの調査結果を踏まえ、地場の製造業を単なる生産主体として捉えるのではなく、自らの製品を多様な顧客のニーズに対応して販売する側面も兼ね備えた複合的な主体として位置づけ直し、地場の製造業と消費市場との関係性に着目した。そのうえで、消費市場がどのように地場の製造業の拡大に影響を与えうるのかを明らかにすることを目的とした。

### 研究の成果

今回の調査では、報告者がこれまでに調査を行ってきた、モザンビーク共和国マプト州マトラ市で事業を展開する、主に金属製の建具を製造する「鉄工所」と呼ばれる企業及びマトラ市に居住する地域の人々に対する聞き取り調査を行い、同地域における鉄工所の最

新の状況及び調査地の建具に関する消費市場の概況を明らかにすることができた。

鉄工所に関しては、2019年に実施した調査で確認された鉄工所の内、市の中心部から相対的に遠い位置で営業していた鉄工所のうち、約半数が調査地の範囲外へと営業拠点を移していた。近隣住民への聞き取り調査においてこれらの鉄工所は、マトラ市郊外で増加する建築需要を獲得するために拠点を移したとの指摘があった。

建具に関する消費市場に関しては、調査対象企業の操業する地域及びその周辺地域において、消費者はデザイン及び機能の双方の面から、総じて新しいデザイン・仕様の製品を嗜好するにもかかわらず、消費者の所得水準や居住地域によっては、必ずしも嗜好する製品と実際に購入する製品が一致するとは限らないことが明らかになった。購買力のある、中高所得者層世帯が増加している地域においては、外資系企業が製造している新しいデザイン・仕様の製品及び同製品を模倣した国内製の製品が購入されるのに対し、低・中所得者層が居住する地域においては、上記のデザイン・仕様の製品を嗜好しながらも、予算上の制約から、従来の安価なデザイン・仕様の製品を購入する傾向が確認された。

鉄工所のなかでも、生産規模と雇用規模を拡大させて成長を続ける鉄工所については中高所得者層の需要を満たす製品に生產品種を絞り込み、これらの製品の生産に特化することで、一定規模での材料の購入及び専用機械の導入が可能となり、材料単価の削減及び納期の短縮を実現し、他の鉄工所よりも利益及び製品生産数を上昇させている可能性が示唆された。また、成長している企業は、そうでない企業と比較し、相対的に多く職人を雇っていると同時に責任者が不在の間も製造を継続する体制が構築されていた。

なお、現地で取得した、鉄工所で働く職人たちの技術を工業的に評価するためのサンプル材に関しては、今後、非破壊・破壊検査を実施し、鉄工所間の技術的差異を検証する。

アフリカの地場の製造業に関し、市場（需要側）の状況までを捉えた研究は少ないため、本調査によって得られた知見は、今後のアフリカの製造業研究のみならず、アフリカ開発の研究領域においても示唆に富むものとなった。今後は、本研究で得られた知見を基に、アフリカの地場の製造業の成長について、より多角的な視点から検討していく。

## 謝辞

世界的な物価高や原油高による航空運賃の高騰が、現地調査を実施する上で大きな障壁となりましたが、本助成により、アフリカの地場産業の発展に関する現地調査を実施することができ、現地で貴重な情報を得ることができました。研究費の助成をいただきました貴財団及び報告者の在外研究の受け入れを承諾して下さった、モザンビーク共和国エドアルド・モンドラーネ大学アフリカ研究センターに厚く御礼を申し上げます。